



平成30年度 栃木県内の埋蔵文化財イベント一覧(2月～3月)
 ※予定が変更になる場合がありますので、詳細は各イベントの主催者にお問い合わせください。

No.	機関名	事業名	事業内容	開催日	時間	会場	問い合わせ先	
							担当部署名	電話番号
1	埋蔵文化財センター	県庁本館ミニ展示	県庁本館2階で行うミニ展示	1月28日(月)～2月21日(木)	午前8時30分～午後5時15分	県庁本館2階ショーケース	埋蔵文化財センター普及資料課	0285(43)1971
2		県庁本館ミニ展示 ギャラリートーク	県庁本館2階で行うミニ展示の解説	2月12日(火)	午後12時30分～	県庁本館2階ショーケース前	埋蔵文化財センター普及資料課	0285(43)1971
3	栃木市	下野国庁まつり	体験型コーナーの出展	3月3日(日)	午前9時～午後2時	農村広場	栃木市教育委員会文化課	0282(21)2498
4	下野市	下野薬師寺跡史跡まつり	下野薬師寺跡を活用したイベント	3月3日(日)	未定	下野薬師寺跡 下野薬師寺歴史館	下野薬師寺歴史館	0285(47)3121
5	鹿沼市	鹿沼まるごと博物館企画展「明神前のモノ語り」展	明神前遺跡の出土遺物展示を中心に、鹿沼の縄文文化を解説する	2月3日(日)～3月18日(月)	午前9時30分～午後6時	鹿沼市文化センター	鹿沼市教育委員会文化課文化財係	0289(62)1172
6		鹿沼まるごと博物館企画展記念講演会	講演会	2月10日(日)	午後1時30分～	鹿沼市文化センター	鹿沼市教育委員会文化課文化財係	0289(62)1172
7		鹿沼まるごと博物館企画展関連事業1	アンギン編み体験	2月9日(土)	午後1時30分～	鹿沼市文化センター	鹿沼市教育委員会文化課文化財係	0289(62)1172
8		鹿沼まるごと博物館企画展関連事業2	拓本しおり作り	2月16日(土)	午後1時30分～	鹿沼市文化センター	鹿沼市教育委員会文化課文化財係	0289(62)1172
9	壬生町	愛宕塚古墳報告会	二ヶ年にわたる調査の成果報告会	2月17日(日)	午後1時～	壬生町城址公園ホール(壬生町中央公民館)	壬生町教育委員会生涯学習課文化財係	0282(82)8544
10	大田原市 那珂川町	3館連携テーマ展「今年のは古墳」	栃木県立博物館・埋蔵文化財センター・なす風土記の3館が連携し、共通テーマ「古墳」で展示会を実施	2月9日(土)～3月31日(日)	①開館時間 午前9時30分～午後5時 ②午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)	①那珂川町なす風土記の丘資料館 ②大田原市なす風土記の丘湯津上資料館	那珂川町なす風土記の丘資料館	0287(96)3366
11		成果発表会・遺跡報告会	なす風土記の丘に関わった人たちの成果発表・発掘調査担当者による遺跡の報告会	2月23日(土)	午前10時～	那珂川町なす風土記の丘資料館	那珂川町なす風土記の丘資料館	0287(96)3366
12		古代なす学入門	歴史解説員養成講座	通年	適宜	那珂川町なす風土記の丘資料館	那珂川町なす風土記の丘資料館	0287(96)3366
13	益子町	歴史講座	歴史に関する講演会	2月24日(日)	午前10時～正午	益子町中央公民館	益子町教育委員会生涯学習課	0285(72)3101
14	市貝町	企画展『発掘された市貝町』	近年の発掘成果や、これまで市貝町で発掘された遺物を展示します。	2月9日(土)～3月24日(日)	開館時間 午前9時30分～午後7時	市貝町立歴史民俗資料館	市貝町教育委員会生涯学習課文化担当	0285(68)0020
15		関連講座『土器や石器を探しに行こう』	市貝町内の遺跡を実際に歩き、土器や石器を採取します。	3月9日(土)	午前10時～正午	市貝町内の遺跡	市貝町教育委員会生涯学習課文化担当	0285(68)0020
16	那珂川町	なす風土記講座	那須の歴史について解説する	5月～2月の全7回	午後1時30分～午後3時 ※第4回は午前9時30分～、第7回は午後1時～	那珂川町なす風土記の丘資料館	那珂川町なす風土記の丘資料館	0287(96)3366
17	那珂川町	縄文土器づくり	縄文土器づくりを行う	成形 1月26日(土) 焼成 3月9日(土)	成形 午前9時30分～正午 焼成 午前9時30分～午後3時	那珂川町なす風土記の丘資料館	那珂川町なす風土記の丘資料館	0287(96)3366



埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは、
 ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及資料課まで
 月～金 TEL 0285-43-1971 (直通)
 日曜日 0285-44-8441 (代表)

編集後記
 皆さんの近所に遺跡があることをご存知ですか？遺跡を通じて過去の人々の生活していた様子が分かると、歴史がより身近な存在に感じられます。平成最後の今だからこそ、歴史に触れてみてはいかがでしょうか。(ながとよ)

栃木県埋蔵文化財センターだより

CONTENTS

- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から 二条城跡
- 埋蔵文化財センターが実施している整理作業から あがた駅南遺跡
- 特集 縄文時代―埋蔵文化財センター常設展示室から―
- 市町教育委員会が実施した発掘調査から 外城遺跡(小山市)
- 埋蔵文化財センター周辺 新施設情報
- 埋蔵文化財センター普及事業の紹介
- 平成30年度 栃木県内の埋蔵文化財イベント一覧(2月～3月)



発行 平成31年2月8日
 栃木県教育委員会
 宇都宮市鳩田1-1-20
 電話 028-623-3425
 編集 (公財)とちぎ未来づくり財団
 埋蔵文化財センター
 下野市紫474
 TEL 0285-44-8441 (日曜日) (代表)
 0285-43-1971 (月～金) (資料普及課)
 FAX 0285-44-8445
 URL <http://www.maibun.or.jp>



とちぎ発掘イッピン図鑑

蝶と雀が舞飛ぶ和鏡

この鏡は、鎌倉時代(約700年前)のもので、西刑部西原遺跡(宇都宮市西刑部町)から出土しました。

紐をとおすツマミを中心に、2羽の雀と23匹の蝶が配されているところから「群蝶双雀鏡」といわれています。

雀や蝶の形は、どれ一つ同じものがなく、2羽の雀は向かいあっていますが、蝶はすべて中心を向いているのが特徴です。似た文様の鏡が日光二荒山神社や、鹿児島県指宿市杖間神社に一枚ずつ見られるのみで、非常に出土例の少ない貴重な逸品です。(実際の大きさは、直径11.5cm、重さ236g、厚さは縁部で9mm、最も薄い部分が1～1.5mm)

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から 二条城跡（栃木市）



二条城

調査区

発掘調査地域の遠景写真（北西方向より）

平成 30（2018）年 5 月～8 月まで砂防堰堤建設に伴う工事に先立ち発掘調査を行い、曲輪（※1）面 2 ヶ所の調査を行いました。

今回の調査では、下の方の曲輪からは建物か柵の跡と思われる柱穴が発見されています。それ以外にも曲輪北側の谷底部分を調査し、時期不明の土坑 2 基や炭窯 1 基のほか、中世のかわらけ等も出土しています。

二条城の正確な始まりは不明ですが、戦国時代に築かれたと思われます。慶長 5 年（1600）藤田能登守信吉が西方 15,000 石を領し、西方藩が成立、陣屋がこの城に置かれたようです。（※2）

東側の一部が東北自動車道によって削平されま



曲輪の場所からは、柵か建物らしき柱穴が見つかりました。

したが、主郭は高い土塁を持ち、一部に石垣が残るほか、その大部分が残っています。また屈曲する虎口（※3）があるなど、さまざまな敵を防ぐ工夫がみられる城です。

（※1）城の中の一区画のこと。近世の城で「本丸」「二の丸」などに該当する。
（※2）慶長 20 年（1615）に改易・廃藩。
（※3）曲輪への出入口のこと（門の存在をイメージするが、必ずしも門があったとは限らない）。



発掘作業の様子

(2) 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から



谷底にあたる場所からは、自然に流れ込んだ大きな岩を発見しました。この岩の間から、かわらけが見つかりました。

埋蔵文化財センターが実施している整理作業から あがた駅南遺跡（足利市）



整理作業室内の風景
多くの方が出土物の整理作業に関わっています。

あがた駅南遺跡の発掘調査は、平成 28（2016）年～平成 29（2017）年度に行いました。（※発掘調査についての詳細は、2018 年 9 月号をご覧ください。）

平成 30（2018）年 4 月から、報告書を作成するため、収蔵箱 1,300 箱におよぶ出土物の整理作業が行われています。

途中経過の段階ですが、東北地方や関西地方で作られたことを示す文様の土器が見つっています。土器を整理することで、あがた駅南遺跡でつくられた土器の変化や異なる地域との交流を調べるヒントとなり、集落の特徴などが分りはじめました。



接合された古墳時代の壺や甕が、箱から溢れるほどたくさん！

また石器の分類は、当時のムラで使われていた道具の実態を考える手がかりになります。主に日常生活で使うヤジリ（石鏃）などの狩猟用具は、近くで採れる石材を使う一方で、石剣など儀礼用の道具の多くは、遠隔地でしか採れない石材を用いるなどの特徴が分かってきました。



遺構から出土した石器も、1 個ずつ石の種類ごとに分類しながら統計も取ります。



バラバラの土器片を接合し、元の形に復元します。最終的に欠けている部分は、補修します。

埋蔵文化財センターが実施している整理作業から (3)

特集 縄文時代

—埋蔵文化財センター常設展示室から—

今から約 16,000～2,400 年前の縄文土器を使っていた時代を「縄文時代」と呼びます。気候が温暖となり、雨の量が増えて、日本列島に森林が発達しました。当時の人々は森林や、水量豊かな川や海から食料を採って生活していました。

縄文土器

土器の表面に縄を転がした文様が付く特徴から、「縄文土器」と名付けられました。

縄文土器の発明で、食べ物を煮ることができ、多くのモノが食べられるようになりました。

別々の遺跡から、形や文様がよく似た土器が発見されます。自分たちの好きな形ではなく、作る形や、文様の種類など、地域ごとにルールがあり、それに従って土器を作っていたようです。



みわなかまち 三輪中町遺跡 (那珂川町) 出土の縄文土器

くらし

住まい (竪穴住居)

発掘調査をすると、地面に円形や方形に掘られた跡や、火を燃やした炉と柱を建てた穴の跡が見つかります。これは、「家」の跡で「竪穴住居」と呼ばれています。

竪穴住居は、移動を繰り返す生活をやめて、同じ場所に長く住む生活 (定住生活) を始めたことを意味します。



ふじおかじんじや 藤岡神社遺跡 (栃木市) の竪穴住居跡



竪穴住居跡の復元図

貝塚

貝や魚、獣などを、食べて残った貝殻や骨を大量に捨て、現在まで残った遺跡を「貝塚」と呼びます。

(→) せいりくさん 清六川遺跡 (野木町) の貝層



石皿・磨石

木の実などをすりつぶして粉にする石の道具です。縄文時代は、木の実が主食であったと考えられます。



土偶

ほとんどの土偶は、ほぼ割れた状態で発見され、儀式の後に、わざと壊したと考えられています。女性を表すのが多く、「女神」や「司祭者 (シャーマン)」、「精霊 (妖精)」とする説があります。



おぎのだいら 荻ノ平遺跡 (高根沢町) 出土の土偶



やつるぎ 八剣遺跡 (壬生町) 出土の土偶

工芸技術

漆

漆を塗った土器や木器が、県内から発見されています。

漆製品って、何がすごいの？

漆を塗るには、ホコリが無い所で何回も塗るため、専用の場所と漆を塗る職人が必要です。漆製品の出土は、その環境があったことを意味します。

てらのひがし 寺野東遺跡 (小山市) 出土の弓
撮影: 小川忠博



しよくいん さくせい たいけんよう 職員が作成した体験用の弓

装身具

限られた人だけが着けられるもので、単なるアクセサリーではありません。その人の身分や地位、ムラの中での役割を示すモノと考えられます。

耳飾り

耳飾りは、縄文時代と古墳時代だけで、最近までつくられませんでした。



てらのひがし 寺野東遺跡 (小山市) 出土の耳飾り

腕輪

発見された数が少なく、特別な地位の人が着けたようです。



おぎのだいら 荻ノ平遺跡 (高根沢町) 出土の腕輪

市町教育委員会が実施した発掘調査から 外城遺跡（小山市）



出土した陶器



発掘調査区の上空写真

国史跡^{わし}鷲城跡に近接する大字外城字上台の約 3,300 m²について、平成 30（2018）年 3 月～10 月まで民間開発に伴う事前の発掘調査を実施しました。調査区は、中世の幹道「奥大道」に接した西側に位置します。遺構のほとんどは中世以降のもので、複数の区画溝で囲まれた内外に、桁行 13mの建物を含む掘立柱建物 5 棟、住居か倉庫と思われる方形の竪穴建物 15 棟、墓といわれる地下式墳 6 基、井戸跡 9 基、300 基を越す長方形土坑、ほか多数の柱穴が見つっています。

遺構からは、主に 15 世紀～16 世紀に製作された中国産の磁器や国産の陶器、素焼の土器や土鍋、石臼などが出土しました。街道を核とした陸上交通と、思川を利用した水上交通が結節する要衝地に営まれた集落と考えられます。

写真・資料提供 小山市教育委員会

埋蔵文化財センター周辺 新施設情報 国史跡 摩利支天塚古墳・琵琶塚古墳資料館（小山市）



展示室内の様子

も古墳の聖地。館内の展示室は、ひたすら古墳づくしで、濃厚な古墳空間が広がっています。また、市の埋文センターとしての機能もあり、昨年まで実施された琵琶塚古墳発掘調査の整理作業が進められており、摩利支天塚古墳の整理作業も予定されています。整理作業の進捗に合わせ、展示の模様替えも？ これからも変わり続ける資料館に、ぜひお越しください。

お問い合わせ：小山市役所生涯学習課文化財係 Tel:0285-22-9826



資料館周辺 上空写真

摩利支天塚古墳

摩利支天塚・琵琶塚古墳資料館

琵琶塚古墳

写真・資料提供 小山市教育委員会

平成 30（2018）年 4 月 21 日、琵琶塚古墳の最初の発掘調査、摩利支天塚古墳の国史跡指定から 40 周年の節目の年に、新しくガイダンス施設がオープンしました。

小山市北部の飯塚地区は、県内最大級の琵琶塚古墳、摩利支天塚古墳、さらに県内有数の古墳群である飯塚古墳群が集結し、あたか

(6) 市町教育委員会が実施した発掘調査から

埋蔵文化財センター普及事業の紹介

市民向け教養講座

12 月 13 日（木）城北地区公民館（佐野市）にて、「地域の遺跡から郷土をもっと知ろう」をテーマに市民向けの講演会を行いました。



講演会の様子

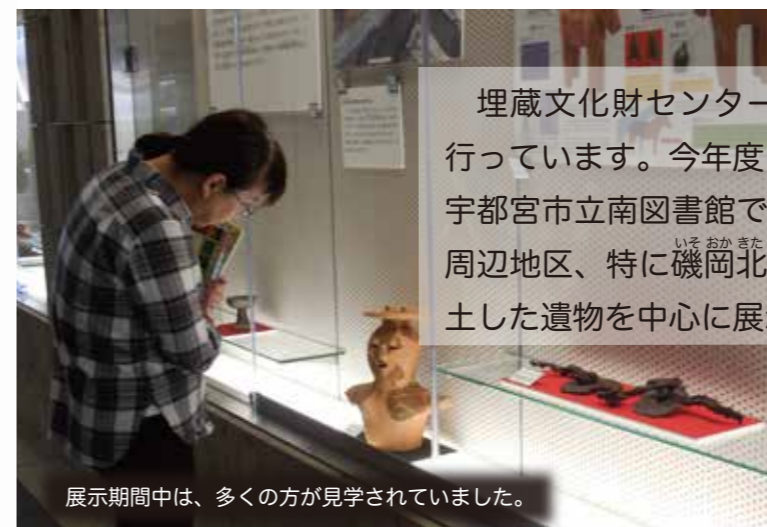


土器を見て、講演内容を復習する受講者

実際に発掘調査を行った職員を講師に、佐野市の遺跡「黒袴台遺跡」「黒袴前遺跡」を発掘調査した意義や、特徴などについて講演をしました。講演終了後は、遺跡から出土した縄文土器や鉄刀、板碑などの見学会を行いました。

写真提供 佐野市教育委員会

図書館でミニ展示



展示期間中は、多くの方が見学されていました。

埋蔵文化財センターは、展示施設以外の場所でも出張展示を行っています。今年度は、11 月 2 日（金）～ 21 日（水）まで宇都宮市立南図書館で展示を行いました。今回はインターパーク周辺地区、特に磯岡北遺跡・琴平塚古墳群を発掘調査した際、出土した遺物を中心に展示しました。

写真提供 宇都宮市立南図書館



展示全体の様子

土器で料理体験

11 月 4 日（日）野木町ホフマン館にて「縄文人なりきり土器ドキ体験講座」の出前授業を行いました。

参加者からは、「土器を使い、料理体験ができて感動した」や、「苦勞して火をつけたので、料理がより美味しく感じた」など、多くの方から満足した声があがりました。



調理した栗。火から取り上げてからも、しばらく沸騰し続けていました。



埋文センター職員がつくった縄文土器を火にかけている様子

埋蔵文化財センター普及事業の紹介 (7)